

KAIKE PRESS #06

2022 / august

幸せはこぶマイバンク
よなごしんきん
 おかげさまで100周年
 この街と 輝く未来へ

おかげさまで100周年
 この街と輝く未来へ
100
 ANNIVERSARY
 YONAGO SHINKIN
 SINCE 1922



▲出店がしやすい場所の案内も入ったレンタル方法のチラシ、こちらも観光センターで配布中でいつでも見られる



▶レンタルできる屋台の実物は観光センターロビーでいつでも見られる

気軽な屋台出店から街に関わる人を増やす

米子市観光センターでレンタルがはじまったこの屋台、程よいサイズ感ながらも収納など機能は充実。飲食出店や、アクセサリーの販売、イベントの受付カウンターなど、色々な利用ができます。また、レンタル相談の際には周辺で出店可能な場所の情報提供も受けられます。

「レンタル窓口である皆生温泉旅館組合の理事・細羽正さんは「皆生に絡む一つの入り口になる」と力を込めます。

コロナ禍で大規模な催しは敬遠されがちな中、「うごくまちぐるぐるかいけ」のような街歩き分散型イベントは新たな可能性を示しました。そこで作られたこの移動式屋台には様々な発展が期待できるようです。細羽さんは「何かやってみたい」という気軽な気持ちで出店実験できる。小さな屋台でも、可能性は大きなものを秘めている」と胸を張ります。

特集

「屋台レンタル」や「駐車場シェア」もって街を楽しくする取り組みはじまっています(^^)

皆生温泉がもっと活性化していくには、宿泊でも、日帰りでも、より歩いて楽しめる街であることが必要です。そのためには足りないものが色々あります。日帰り散策やイベントには駐車場が足りません、散策したくなるお店ももっとあるといいですね？ そんな課題に向けて、様々な動きがはじまっています。

屋台レンタルもakippaもまだスタートしたばかり。しかし、確実に街の更なる活性には必要な取り組みです。今後に期待したいですね。



akippaの利用画面。1日単位や15分単位で駐車場を簡単に予約できる。



空きスペースや空き時間を活用してより良い街歩きを！

akippaは全国の空きスペースが駐車場として登録され、スマホアプリなどから簡単に予約や利用ができるサービスです。

「皆生温泉の街には、日帰り観光や、ちょっとした遊びで利用できるような、時間借りできる駐車場がありませんでした」と、そう語るのは、皆生温泉内の宿泊施設で先駆けて、自社の駐車場の一部をakippaに登録した皆生シーサイドホテルの港英明代表。

「まだ登録して半年。利用は決して多くありませんが、先日のトリアススロンの際などには、明らかに駐車場は不足します。今後、大きなイベントの際にはakippaでの駐車場利用ができること自体なども告知しながら、利用と街歩きに繋げていきたいですね。」

イベント **かいけ空き物件ツアー** 2022/9/3 sat 13:30~15:30

皆生温泉エリアの空き地や空き物件をめぐるツアーです。エリアの新たな魅力発見やチャレンジしたくなる物件との出会いがあるかも。ツアーの最後にはコーヒープレイクしながら、アイデアを共有いたしましょう。

※約1時間半歩きます。歩きやすい格好と飲み物の持参をお願いします。
 ※コーヒープレイク時は別途喫茶代金が必要です。

参加費 無料
 申込み必切 9/1(木)まで
 お申込みはコチラ



2022/9/7 wed **水 SWITCH 広場**

皆生のまちを楽しくSWITCHしていく、毎月第一水曜の屋外イベントです。事前清掃&交流イベントを毎回開催！だれでも、毎月第一水曜は16:00に、米子市観光センター前の広場にお越しください！



※5月11日開催時の様子です(^^) 楽しいですよ~!!

KAIKE PRESS #06

2022 / august



おかげさまで100周年
この街と 輝く未来へ



特集

水面を進む感覚を共有して みんなが笑顔に



フェスで見た確かな可能性

皆生海岸で6月、パラスポーツへの理解を深めてもらう「KAIKE PARA FES (カイケパラフェス)」が開かれました。誰でも安心して海水浴ができるユニバーサルビーチの実現を目指す活動の一環で、サーフボードの上に立って1本のパドルで漕いで水面を進むSUPや、カヤックなどマリンスポーツの体験が行われました。ライフセーバーや医療福祉の専門学校生、理学療法士らがボランティアで参加して安全に遊べる環境を整えました。

20歳代の全身まひの女性は、子どもの頃は両親が抱っこして海に入っていました。体の成長によつて家族で海水浴が難しくなりました。イベントを知って約20年ぶりに訪れたビーチで、スタッフのサポートでビーチマットに乗ると最初は引きつった表情でしたが満面の笑顔になりました。海に初めて入る障がいのある子どもも参加しましたが、泣いている人は1人もいませんでした。

主催団体のJapan para marine associationの武澤浩次代表は「参加者がみんな笑顔だった」と反響の大きさにニーズの高さを実感しました。

定期的な開催にスタッフの確保や、ブイで区切られた海水浴エリアで一般客とのすみ分けなどハードルはあるものの、武沢代表は「40年、50年前のにぎやかな海になったら」と期待を寄せています。

皆生海岸をユニバーサルビーチへ

皆生海岸で障がいのある人や高齢者も安全に楽しく過ごせるビーチづくりが進められています。「海水浴場はこうあるべき」という観光の固定観念を打ち破り、奥行きを感じられる観光へステップアップして皆生のにぎわい創出を見据えます。



コラム

実行委員会のなか vol.3

「わたしの好きな皆生」

米子市議会議員 岩崎 康朗

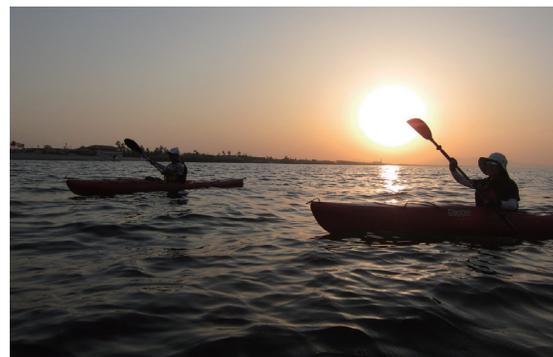
私の中の皆生といえば、やはり「海」のイメージです。眼前に広がる日本海。どんな心境で眺めてみても、大海原に心が洗われていきます。苦しい時も楽しい時もいつもそばにいて、癒してくれる皆生海岸です。

今から30年前、家業の旅館業の後継者として皆生に来ました。皆生青年倶楽部という組織に入り、その後、皆生温泉旅館組合青年部会長として、皆生温泉の活性化と将来構想をたてるという大役をいただきました。

当時、皆生温泉旅館組合では、観光カスマの一人、山田桂一郎先生のもとエコツーリズムを推進し

ており、青年部の我々には、実践を通してそのトップランナーを走るよう言われました。そこで山田先生から、(株) mont-bellの辰野勇会長をご紹介いただき、皆生海岸でレクリエーショナルカヌー(シーカヤック)事業を始めることとなりました。自らカヌーインストラクターとなり、アウトドアスポーツを楽しむことを目的としたお客様に接し、ともに大海原へ漕ぎ出す快感を感じました。

そして、辰野勇会長が思い描き続けられたジャパンエコトラック構想、さらには環境イベントSEA TO SUMMITを全国に先駆けここ皆生の地で行っていただきました。大会で、あのキャロライン・ケネディ駐日米国大使を私がシーカヤックで警護するという、本当に思い出深い出来事もありました。



現在はカヌー協会の理事長も後任に託し、今後は、皆生温泉の将来像を妄想しつつ、微力ながら皆生温泉の街づくりに励む覚悟であります。



米子市議会議員(米子市議会前議長)
岩崎 康朗

米子市議会議員(米子市議会前議長)、皆生温泉旅館組合青年部 元会長、皆生レクリエーショナルカヌー協会 前理事長。皆生の海を愛してやまないおじさんです。